

伊藤ヨシ様が寄付してくださった農地の活用についての提案

清瀬市では老人のためのコミュニケーションの場所として、お茶飲み会を中心とした集いがたくさん開かれ、軌道に乗ってきて、楽しい交流の場となっています。

しかし、70代の方たちは、体力的に個人差が大きく、まだまだお茶飲みだけではなく体も動かしたいという方もいらっしゃると思います。

そこで、伊藤様がせっかく農地として寄付された土地の活用として、そのまま一部を農地として活かし。元気な老人たちに交流の場として、農業公園として活用できるようにしていただけたらと思います。100坪程度でもいいのです。

その畑地を利用し、老人たちだけのものではなく 子供たちやその保護者たちとの交流の場としてさつまいもやじゃがいもの苗植えから収穫までの体験、野菜の種まきから収穫、

夏野菜の栽培などの体験の提供。季節の集いとして秋には焼き芋大会などなど。

家庭菜園に興味のある方を募って、実行委員会のような形式で元気な老人たちの活動の場として、ぜひ一考をお願いしたいと思います。

東村山市では「ちろりんむら」という名称で老人たちを中心に畑を耕し、ジャガイモや、さつまいもの収穫時にはひとり親の家族の子供たちを招待し交流を持っています。

また、朝霞市では農業公園もできています。

国立市では2015年5月22日に子供たちや市民に農業を体験してもらうとして、「城山さとのいえ」を開館しました。

私がこの提案をするのは

清瀬の自然を守る会では東京都から80坪ほど借り、御殿山の畑で、雑木林と畑の自然の循環として、雑木林の落ち葉を堆肥して利用し、農作物を作っております。1人ではできなくても、曜日を決め、都合の良い人が集まり活動をしています。年代は63歳から80歳の約12人の老若男女です。作業の後のお茶飲み会も交流の場となり、いろいろな情報交換の場になって楽しいひと時です。作った野菜はボランティア作業時の、おやつや汁物の食材提供し、残ったものは個人でも頂いております。

また、小学校の自然観察の場として、夏休みのボランティア体験、老人介護施設の方を招いて、だいこんやサトイモなどの収穫体験を受け入れています。

保育園の園児ではさつまいもやジャガイモの植え付けから、収穫までの体験も受け入れていました。

子供たちや、介護施設の老人たちも収穫体験では本当に楽しそうに芽を輝かせております。

こんな経験を10年続け、もっと、大きな組織に広げて、たくさんのかたに、体験して

いただきたいと、常々思っており、今回市で農地を確保したことを聞きまして、提案いたしました。

別紙にて、先日朝日新聞に掲載された人生充実「いざ、地域の輪へ」シニアの仲間づくり「野外サロン」と国立市の記事を添付いたします。